

特別の教科 道徳【第6学年】

10. 森川君のうわさ（光文書院）

1 主題名

「安心して生活できるクラスにするために」

学習指導要領の内容

C-(13)公正、公平、社会正義

誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。

2 主題設定の理由

(1) 価値観

小学校の最高学年である6年生は、周りからの視線が気になり、友達からどのように思われるかで物事を判断したり、同調圧力を強く感じたりする時期である。本主題を通して、このような考え方が差別や偏見につながり、いじめを生み出していること等を児童が自覚し、自分たちの問題を自分たちで解決していこうとする意欲や態度を育てていく。

そのために、主題で扱う教材を以下のように設定した。第1時と第2時では、自分の信念を大切にすることや、友達を信じることの大切さについて道徳的理解を高める。第3時では、差別のない社会にするためにはどうすればよいのかを考えることを通して、行動することの重要性を確認するとともに、自分たちにできることを考える。そうすることで、第4時では、より自分事として教材を捉えることができる。と考える。

第1時：A（2）正直、誠実「自分の心に誠実に」『手品師』

第2時：B（10）友情、信頼「真の友情とは」『ロレンゾの友達』

第3時：C（13）公正、公平、社会正義「差別のない社会を求めて」『私には夢がある』

第4時C（13）公正、公平、社会正義「公正な態度で」『森川君のうわさ』(本時)

(2) 子ども観

小学校6年生の発達段階として、目標に向かって仲間と励まし合うなど、教師だけではなく、子どもたち自身も集団としての高まりを感じる時期である。一方で、人や場所によって態度を変えたり、他者に流されて間違った行動を取ったりすることも時にはあるだろう。また、自分の思いを伝えたいけれど、うまく伝わらなかった経験をもつ児童もあり、周りがどう思っているのが気になって、なかなか自分の考えを伝えられない児童も多いことが考えられる。また、これまでの学校生活で「うわさ」に流されたり、悩まされたりする経験も少なからずあるだろう。

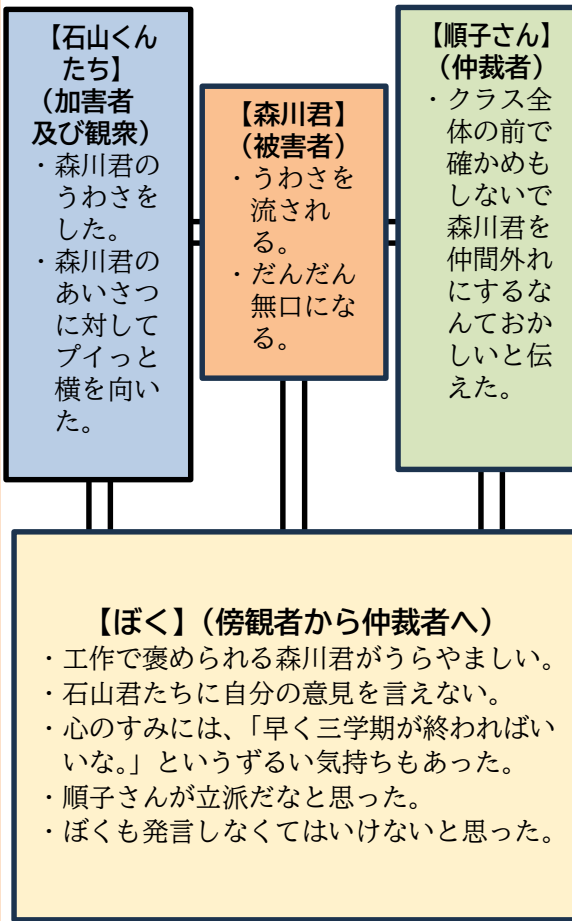
本時の「森川君のうわさ」では、教材文の4人の人物に共感させながら授業を展開することで、それぞれの人物の心の葛藤と向き合っていく。

(3) 教材観

本教材をいじめ問題と関連付けて捉え直した。加害者、被害者、観衆、傍観者、仲裁者の立場に分けて教材分析をした。

本時では、それぞれの立場に分けて板書し、子どもの思考を整理することで、場面の把握が容易になる。

また、それぞれの登場人物の言動を板書上で矢印等を使ってまとめ、登場人物の心情に寄り添わせることで、「加害者が悪いからいじめが起こる。」という一面的な見方ではなく、「傍観者も、あの時に止めていればいじめが防げた。」など、多面的・多角的に考えることができるようにした。



3 本時のねらい

友達のうわさについて疑問をもっているが、自分の考えを伝えられない「ぼく」の姿を通して、誰に対しても公正・公平な態度で接し、安心して生活できるクラスにするために、クラスの問題と向き合っていく。こうする判断力を育てる。

4 本時の展開

	学習内容・活動等	評価につながる見取り・留意点
導入	○事前に実施した「うわさ」に関するアンケート結果から、「うわさ」についてのイメージや考え方について交流する。 うわさで不安になることがある。 いい評判が伝わることもある。 うわさを流してしまった経験がある。 事実ではないこともあった。	・「うわさについての印象や経験」についてのアンケート結果から問題意識を醸成する。（アンケート項目は別紙参照）
展開	一人一人が安心して生活できるクラスにするためには、どんな心が大切かな。 ○登場人物を確認し、教材文を読み、感想を交流する。 石山君たちはうわさを広めてひどいな。 森川君は無口になってかわいそうだ。 順子さんは勇気があるよね。 ぼくは、自分の考えを伝えなかったことを後悔していると思う。 ○森川君が無口になっていったのを見た時の、「ぼく」の気持ちについて考える。 ぼくのせいで、森川君が無口になったのかな。 早く三学期が終わらないかななど、ずるい気持ち。 森川君は悪くないのに。 「ぼく」の気持ちが大きく変わっているよ？ 「ぼくも発言しなければいけない。」と思ったのはどうしてかな。 ぼくの後悔の気持ち ・「それはちがう。」とあの時に言えなかった後悔の気持ちがあるから。 ・森川君が器用だと思っていたのに、すぐに言い出せなかったから。 森川君の気持ちを考えて、 ・勝手に噂されて傷つけられている森川君の気持ちを想像できたから。 ・このあと、森川君がどんどんいじめられそうだから、止めないといけないと思ったから。 順子さんの行動に動かされて ・順子さんの言っていることが、その通りだと思ったから。 ・周りに流されないで発言する順子さんがすごいと思ったから。 ・順子さんの言葉を聞き、森川君の気持ちを真剣に考えたから。 一人一人が安心して生活できるクラスにするためには、どんな心が大切かな。	・個別探究から協働探究へ（小グループ協議） 【内容把握が難しい児童への配慮】 ・4人の登場人物の立場や行動について整理する。 ・葛藤する「ぼく」の気持ちを考えたり、思ったことを言えない弱さに共感したりするよう働きかける。 【問い返し】 ・「ぼくはどうして思ったことを言わなかったの。」 ・「ぼくはどうして早く三学期が終わればいいと思ったの。」 ・傍観者だった「ぼく」の気持ちが変化した様子に着目するよう促す。 →傍観者から仲裁者へ 【問い返し】 ・「ぼくが影響を受けた順子さんの考え方とはどのようなもののなの。」 例) うわさを信じない。 正しいことを見極める。 みんなの意見に流されない。 ・本時のめあてに立ち返り、自分事として捉え、考えるよう促す。
終末	正しいのか正しくないのかについて、自分で判断していくことを大切にしたい。 偏った見方をしないで、公平な立場で物事を見ていきたい。 一人一人が勇気をもって、正しいことは正しいと言えるクラスにしたい。 ○ワークシートに振り返りを書く。 ○振り返りを交流する。	【評価につながる見取り】 偏ったものの見方や考え方をすることなく、公正、公平な態度で接することの大切さや正義の実現について考えているかを見取る。（発言・記述）